



日本語教師のための

Shadowing

シャドーイング 指導

迫田久美子・古本裕美 (編著)

倉品さやか・山内豊・近藤妙子 (著)



くろしお出版



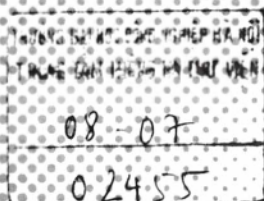
日本語教師のための

Shadowing

シャドーイング 指導

迫田久美子・古本裕美 (編著)

倉品さやか・山内豊・近藤妙子 (著)



くろしお出版

はじめに

「私の成功の秘訣は、誰にでもできることを誰にもできないほど続けたことだ。」これは、日本のある有名な大手企業の社長の言葉です。彼は、自らトイレや社内掃除を徹底して行っていました。そして彼は、「掃除は頭の整理であり、毎日することで細かい汚れやムダに気づく」と言っています。この記事を読んで、思わず「言語学習も同じだ!」とシャドーイングのことを思い出しました。

本書の目的は、「シャドーイング」という練習方法を日本語教育の現場の教師に理解していただき、学習者のニーズに応じて利用してもらうことです。

長年、日本語教育に携わってきて、一度も変わらなかった考え方があります。それは、「語学学習に近道はない。繰り返し聞いたり、読んだりすることによって学習者は上手になっていく」ということです。研究を重ねて、文型練習や音読が「古い練習方法」とされながらも、短期間で最大の効果を上げる方法としては有効であることがわかりました。どんなに上手でわかりやすい説明であっても、魅力的な教科書であっても、学習者は誤用なしに外国語を習得することはありません。頭でわかることと実際に話すことは違い、学習者は何度も誤用を産出しながら、習得の階段を上っていくのです。筆者は、「詳しい解説よりも多くの例文」「教師の説明よりも学習者の発話」が言語習得に効果があると信じています。いわゆる「習うより慣れろ」ということ。ですから、教師の役割は「いかに現実場面に近い状況を作り、説明を極力少なくして言語形式のルールを気づかせ、多種多様の方法で学習者に飽きさせずに楽しく練習させるか」であると考えます。

このようなビリーフを持っている筆者が出会ったのが、「シャドーイング」という練習方法でした。シャドーイングは古くから通訳訓練に用いられている指導法と知っていましたが、積極的に日本語の授業には導入はせずにいました。しかし、外国語の運用能力を育成するには「自然なインプット」と「繰り返し練習」が不可欠であり、それにはシャドーイングが適していると考え、2005年から実際の授業に導入し、さまざまな実験調査によりシャドーイングの効果を確信しました。

本書は、2004年から行ったさまざまな調査や研究、そしてその研究にかかわった国内外の現場教師たちの実践と経験談によって構成されている「実践のためのシャドーイングの手引き」です。

第1部では、シャドーイング実践への入り口として、長期間にわたる調査の結果を示し、第二言語習得研究の観点からなぜシャドーイングが有効なのかについて述べています。

第2部では、シャドーイング実践の具体的な内容を示しています。第1章と第2章では、教材の選び方や種類やレベルとの関連について、第3章ではシャドーイングの練習方法や教室活動としての実践を詳しく解説し、また、海外で長年日本語を教えている教師たちのシャドーイング授業の実践例もご紹介しています。第4章ではシャドーイングアプリの開発とそれを使用した授業を紹介しています。さらに、第5章、第6章ではシャドーイングの評価法や学習者へのフィードバックの仕方を例で示しながら詳しく解説、第7章では、教師と学習者とのやりとりの実例や学習者へのさまざまなサポートを挙げ、教師の学習者への気配りや気遣いの重要性を説きます。また学習者のモチベーションをあげる教室活動の実践例もご紹介しています。

第3部では、民間の日本語学校におけるシャドーイングの実践の取り組みを「座談会」形式で紹介しています。日本語教育機関でどのように「シャドーイング」を取り入れていけるか、担当教師たち7名の率直な意見が述べられています。

以上のような内容構成からも、本書の著者陣が日本語や英語を教えている現場教師であることから、本書がシャドーイングを知ってもらうための解説書に留まることなく、シャドーイングをいかに使うか、授業実践に即した指導書であることがお分かりになるでしょう。「シャドーイングって、知っているけれど、授業の取り入れ方がわからない」「上級レベルの学習者しか使えないのでは・・・」と導入をためらっている皆さま、また、「導入しているけれど、もっと効果的な利用法が知りたい」「シャドーイングの練習をどう評価したらいいのだろう」と悩んでいる皆さま方にぜひ、読んでいただきたい「教師による、教師と学習者のためのシャドーイングの本」です。

2019 年秋
迫田久美子(編著者)

目次

第1部 導入編

日本語教育におけるシャドーイングとは 1

第1章 外国語の上達とシャドーイング	2
1. シャドーイングという訓練法	2
2. 誤用とシャドーイング	4
3. シャドーイングと「繰り返し」の効果	5
第2章 シャドーイングの効果	9
1. シャドーイングの効果に関する研究	9
2. 音読との比較	12
3. 書写との比較	13
4. シャドーイングと日本語能力のレベル	14
5. シャドーイングの教材の難易	16
6. ペア学習型授業と教師主導型授業	17
第3章 シャドーイングのメカニズム	20
1. 学習者はなぜ間違えるのか	20
2. 「わかる」と「できる」の違い	22
3. 「わかる」を「できる」に変えるために	24

第2部 実践編

シャドーイングの授業実践 35

第1章 教材の選び方 (1) 一素材の種類・長さ・音声一	36
1. ダイアログとモノログ	36
2. 生教材と自主制作教材	39
■実践例①：国民的な詩のシャドーイング	39
■実践例②：TVコマーシャルを用いてモチベーションを上げる	41
■実践例③：「母語訛り」の外来語の発音を克服するための シャドーイング教材	45

3. 教材の長さ	48
4. モデル音声（話し手）の性別と年齢	50
第2章 教材の選び方（2）ーレベル・難しさー	53
1. 教材のレベル	53
2. 学習者が感じるシャドーイングの難しさ	55
第3章 シャドーイングの練習方法	60
1. さまざまなシャドーイング導入例	60
2. 各活動で使えるツール	67
3. シャドーイングにおける自己調整的な学習	71
4. シャドーイング練習にかかる時間	80
コラム① ビジュアルと音声を組み合わせたシャドーイング	83
第4章 アプリを使った実践	85
1. アプリ「がんばってシャドーイング」開発の経緯	86
2. 「がんばってシャドーイング」の機能	88
3. 「がんばってシャドーイング」を使った授業実践	98
第5章 シャドーイングの評価（1）ー手動評価ー	108
1. 手動評価とは	108
2. 全体的印象による評価	109
3. 観点別による評価	109
4. 正確な再生率に基づく評価	111
5. 簡易的な再生率による評価	113
6. 重点ポイントを設定した評価	115
7. 手動評価のまとめ	117
コラム② シャドーイングは自動的に評価できるのか	119

第6章 シャドーイングの評価(2)ー学習者へのフィードバックー	122
1. 誰が評価するか	122
2. 何を評価するか	127
3. どのように評価し、フィードバックするか	132
第7章 学習者へのサポート	137
1. シャドーイングと動機づけ	137
■実践例④：シャドーイングで人形劇	141
■実践例⑤：シャドーイングを暗唱のクラス発表につなぐ	143
2. 学習者を知る	147
■実践例⑥：教師からのフィードバックの重要性	148

第3部 座談会

日本語学校でのシャドーイング実践 165

□ 索引	177
□ 資料	181
□ おわりに	182
□ 著者紹介	183

第 1 部

導入編

日本語教育における シャドーイングとは

「シャドーイングって、効果があるんですか。」これは、講演会やセミナーでよく尋ねられる質問です。そこで、いつも「シャドーイングに効果があるかどうかではなく、皆さんがシャドーイングを効果が出るように使うかどうかが決め手です」と答えます。

第1部では、学習者の誤用が出現する背景を考えることによって、「わかる」と「できる」ことの違いを示し、シャドーイングに注目した経緯とさまざまな調査によってその効果を検証してきたプロセスをしめします。

第1章

外国語の上達とシャドーイング

外国語の教授法は、昔から多く紹介されています。読者の中には、専門家の方も学生時代に「外国語教授法」「日本語指導法」などの授業科目で学んだ方もいると思います。「文法訳読法」から始まり、「グアン・メソッド」「ペルリッツ・メソッド」「オーディオリンガル・アプローチ(AL法)」「サイレント・ウェイ(沈黙式教授法)」「TPR(全身反応教授法)」「CLL(コミュニティ・ランゲージ・ラーニング)」「サジェストペディア」「ナチュラル・アプローチ」「内容中心教授法(CBLT)」など多くの教授法が紹介されてきました。しかし、いずれも長所と短所があり、学習者のニーズによってどの教授法が良いかが異なってきます。

また、日本語教育を専攻している大学院生の中には、研究テーマとして「中国人にとって最も効果的な日本語教授法」「学習者にとって最適な日本語指導」などを考えて相談に来る学生がいますが、その度に全ての学習者に効果的な教え方はないことを伝えてきました。

しかし、半世紀以上、英語と日本語を外国語として教えてきた筆者の経験から、どの学習者にとっても必ず効果がみられる訓練法の1つとして、ここ数年、「シャドーイング」を勧めています。この章では、その理由と背景について述べたいと思います。

1. シャドーイングという訓練法

シャドーイングは、言語訓練の1つの方法であり、古くから通訳の訓練法としても知られており、英語教育では運用能力を養成する活動として、近年注